

青空学級 生活単元学習指導案

1 題材名 「焼きそばを作って食べよう」

2 指導観

- 青空学級には、1年生1人・3年生2人・4年生4人・6年生3人、合計10人が在籍している。ひとりひとりの特性に違いがあり、どの子も場面や状況の理解・社会的行動の獲得やコミュニケーションに難しさをもっている。言語表出については、自分の興味・関心のある事柄や自分の要求については伝えることができる場面は多くなってきた。他者からの指示や問いかけに対して、短い言葉なら理解することができる。しかし、その意味や内容の理解については、受け取る力が十分とは言えない。また、興味の偏りもあり、集中して聞けるときとそうでないときの差が多々ある。クラス内での読み聞かせやお話会への参加を継続することにより、少しずつだが聞く力がついてきている。

加えて、

- ◇ 過去のことを想起できにくいこと
- ◇ 会話の最中に話題がずれてしまうこと
- ◇ 覚えた言葉を同じような場面でもなかなか使えないこと

等々の傾向があるために、会話が続きにくいことも実態として挙げられる。

- 子どもたちは、これまでに青空学級で買い物学習を重ねている。また、買い物をすることのおもしろさを味わったり、炊き込みご飯・カレーや素麺・そばを調理してみんなで食べたりする楽しさを実感している。そのような既習の体験を基にし、大好きな焼きそばの材料を自分たちで買って、作って食べるというこの題材は、子どもたち全員が活動の見通しを持ちやすく、意欲的に取り組むと共に相手意識をもって学習に参加することができるものである。

特に、「必要なものを買う」この学習活動には、

- ・お店の人（見知らぬ相手）と会話する場を無理なく設定できる。
 - ・必要な事柄を相手に伝える場面を想定し、相手に伝える言葉が考えやすい。
 - ・目的を達するためには、相手の話をよく聞く必要がある。
- という良さがある。

本単元の学習を通して、相手とのコミュニケーションをとるには、場に応じた適切な言葉があることを理解し、そのスキルを身につけることによって日々の生活へとつなげることができると考えられる。

- 本単元の指導に当たっては、子どもたちが大好きな焼きそばを自分たちで調理して食べるということを最終目標にすることで単元全体の学習意欲の継続を図りたい。

また、想定される学習展開を子どもたちと共に作り上げていきたい。

子どもたちの既習経験から想定される学習展開として

- ・焼きそば専門店を試食し、材料・調理の手順の確認をする。
- ・買い物練習をする。
- ・買い物をする。
- ・調理をして食べる。

が、考えられる。

加えて、買い物学習の場の設定・学習グループの編成から、6年生が、店の人、4年生・3年生・1年生が買い物客となり、子ども相互のやり取りを通してスキルアップを図りたい。

買い物の計画については、「誰が、何をかうか」・「どのくらいかうか」等を子ども自らに計画さ

せていく。買うものが決まったら、表に記録させて「困った時」や「分からなくなった時」の手がかりになるようにする。また、お店の人に言う言葉を考えさせたり、言い方を練習させたりする。

さらに、模擬店で買い物をし、お店の人とのやり取りを練習させる。模擬店には実物の野菜を並べ、子どもが実際に手にしながら買い物の体験ができるようにする。

模擬店では、二つの店を設定する。

スーパーマーケット

- ・ 自分で品物を選択し、買い物をする。
- ・ 欲しくても見当たらないものは、お店の人に聞いて持ってきてもらう。

やおや

- ・ 買い物の品をお店の後方に陳列する。そのことで、欲しい品物を手に入れる為には、会話が必然的に生まれるようにする。

買い物のやり取りがうまくいかないときは、支援カードを使ったり、相談コーナーに行かせたりして買い物がうまく行えるようにする。模擬店での買い物練習後、自分たちの買い物の様子をVTRで振り返り、上手な買い物のやり取りを見つけ出させていく。

実際の買い物のときには、できるだけ子どもが買い物のやり取りができるように、店との事前打ち合わせや子どもが買い物をする余裕をもたせるなどの配慮をする。買い物が終わったら、グループごとに買い物のやりとりをふきだしカードに記録させ、互いにやり取りができたことを認め合う。

そして、焼きそば作りをする。全体で作り方を確かめた後は、グループごとに教師が支援に入り、安全に気をつけながら作らせる。なお、包丁などは必ず教師の支援のもと安全に気をつけて交代で使用させる。一人一人の活動を保障し、楽しく活動できるようにする。自分たちが買って来たもので作った焼きそばをみんなで美味しく味わうことができるようにする。

最終的に、計画表に記録した活動の足跡（画像）を手がかりにし、自分たちの活動を振り返り、成功感、達成感をもたせる。

3 単元目標

- 自分から進んで、買い物や焼きそば作りに取り組もうとしている。
- 友達と協力しながら、買い物や焼きそば作りができる。
- 買い物をするときの会話の仕方を身につけ、実際の買い物に生かすことができる。

4 学習指導計画（全 10時間）

（手だて ※1自分の考えをつくる活動 ※2話し合い活動 ※3振り返り活動 ※**環境**）

時	主な学習活動と内容	教師の支援と手だて
1	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">本単元の学習計画を知り、単元を通しての見通しをもつことができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本時のめあてを知る。 2 自分たちで焼きそばを作ることを知る。 3 単元の計画を知る。 4 グループに分かれて、作ることを知る。 5 次時の活動を確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元の計画表（視覚的な掲示物）を提示しながら説明する。 ○グループごとに名前を呼び、グループ表に名前を書きこませ、誰と一緒にグループかを意識させる。

2	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">専門店で焼きそばを作っているのを見て、焼きそば作りへの意欲をもつことができる。</p> <p>1 専門店で焼きそばを食べる経験をする。</p>	<p>○グループを同じテーブルで食べさせる。 ○食べながら、材料や作り方を話題にする。</p>
3 4	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">材料の確認をし、買い物の計画を立て、自分が買うものがわかる。</p> <p>1 本時のめあてを確かめる。 2 全体で、材料の確認をする。 3 だれが何をかうか、どのくらい必要かなどを話し合う。 4 グループで練習したことを発表する。 5 次時の活動を確かめる。</p>	<p>○専門店での食事の経験から、焼きそばを入れる食材を決めさせる。 ※1 食材の画像を提示し、個別に買うものを視覚的な側面から支援する。 ※1 誰が何をかうか表に書き込ませる。 ○お店の人に言う言葉を言わせ、やりとりをイメージさせたり、模擬練習をさせたりする。 ※環言葉が出にくい子どもには、支援カードを準備しておく。</p>
5 本時 5 / 10	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">模擬店で買い物をし、お店の人との会話を練習することができる。</p> <p>1 本時のめあてを確かめる。 2 グループごとに、模擬店で買い物の練習をする。 3 買い物学習での上手なやり取りを発表し合う。 4 次時の活動を確かめる。</p>	<p>※1 買う品物の一覧表、会話の例文等で自分がすることを確認させる。 ※2 お店の人、買う人に分かれて、役割を演じさせる。 ※環模擬店を作り実際の野菜を並べ、無理なく会話につながるような場の設定をする。 ※環自分が買うものを忘れてしまったら、相談コーナーに行って買うものを確認させる。 ※環言葉が出にくい子どもには、支援カードを準備しておく。</p> <p>※3 VTRを見て、上手な買い物の仕方を見つけさせる。 ※3 吹き出しカードに上手な買い物の仕方を書き込み、話し合いに生かせるようにする。</p>
6 7	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">お店に行き、買い物をすることができる。</p> <p>1 本時のめあてを知る。 2 グループごとに、自分が担当したものをかう。 3 グループごとに、買ってきたものを発表し合う。 4 次時の活動を確かめる。</p>	<p>○買い物の場面での会話を設定しやすいように個人商店に行かせる。 ※環会話がスムーズにできない子どもには、支援カードを使わせる。</p>

<p>8 9</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">グループごとに協力して、焼きそばを作ることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本時のめあてを知る。 2 作り方を，確かめる。 3 グループごとに，やきそばを作る。 4 焼きそばを食べる。 5 次時の活動を確認める。 	<p>○教師が各グループにつき，子どもの活動を支援する。</p> <p>○交代で野菜を切るなど，安全に気を付けさせながら，一人一人が活動できるようにする。</p>
<p>10</p>	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">活動したことをふり返って，絵や作文にまとめることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 本時のめあてを知る。 2 本単元でしたことを，絵や作文にまとめる。 	<p>○活動の様子を写真や画像を使って振り返ったり，子どもの言葉を取り出したりして提示する。</p> <p>○提示したものを基に振り返り，まとめたことを選ばせる。</p>

青空学級 本時学習指導案

5 本時（5／10）

6 本時の目標

- 相手を意識し、自分の伝えたいことを上手に伝えたり、やり取りをしたりすることができる。
お店の人・・・相手の買いたいものを聞いてから、品物を渡したり、値段を言ったりすることができる。
- お客 A**・・・お店の人の言葉を最後まで聞いて、自分の買いたいものを伝えることができる。
グループ 困ったときは、カードを手がかりに買い物を進めることができる。
- お客 B**・・・相手に聞こえる声で、自分の買いたいものを伝えることができる。
グループ
- 友だちの発表のよかったところを見つけることができる。また、その真似をすることができる。

7 本時指導の考え方

- 児童の「人への関わり」という観点から、次のような実態が明らかになった。

	児童名	人との関わりの実態	個別の目標
青空 1組	A ・ B (お客A)	○一方的に話をすることが多い。 ○相手の話を最後まで聞くことができない。	○お店の人の言葉を最後まで聞いて、自分の買いたい物を伝えることができる。 ○困ったときは、カードを手がかりに買い物でのやり取りができる。 ○上手な会話のやり取りを見つけることができる。
	C ・ D (お客A)	○人と関わることは好きだが、関わり方が身につけていないところがある。 ○要求や経験したことを、簡単な文で言い表すことができる。 ○新しい場面ではどう対応して良いかわからないことが多い。	○カードを手がかりに、上手な買い物でのやり取りができる。 ○上手な買い物でのやり取りを真似することができる。
	E ・ F (お客B)	○相手の思いを考えて、関わることができる。 ○教師を介さなくても、友達と関わる事ができる。 ○困ったことがあると、黙り込むことがある。	○相手に聞こえる声で、自分の買いたい物を伝えることができる。 ○上手な会話のやり取りを見つけることができる。
	G ・ H (お客B)	○初めての相手でも、進んで関わろうとすることができる。 ○教師を介さなくても、友達と関わる事ができる。 ○自分のしたことや思いを、順序立てて話すことができないことがある。	○周りの刺激に左右されずに、お店の人に自分の買いたい物を伝えることができる。 ○上手な会話のやり取りを見つけることができる。

	I ・ J (お客B)	<ul style="list-style-type: none"> ○相手の思いを考えて、関わることができる。 ○教師を介さなくても、友達と関わるができる。 ○慣れない場面では恥ずかしがり、進んで話せないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手に聞こえる声で、自分の買いたい物を伝えることができる。 ○上手な会話のやり取りを見つけることができる。
青 空 2 組	K ・ L (お客A)	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のことを伝えるときに同じことを繰り返し、まとめながら話すことが難しい。 ○慣れた人には進んで関わるが、慣れない相手にはあまり話しかけない。 ○教師を介さなくても、友だちと関わるができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手に聞こえる声で、自分の買いたい物を伝えることができる。 ○困ったときは、カードを手がかりに買い物をするができる。 ○上手な買い物でのやり取りを真似をすることができる。
	M ・ N (お客B)	<ul style="list-style-type: none"> ○相手のことを考えながら関わるのが苦手で、会話が一方的になりがちである。 ○リードしてくれる相手に対しては、落ち着いてやり取りできることがある。 ○慣れない場面や新しい場面では、緊張してスムーズに話せないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○周りの刺激に左右されずに、お店の人に自分の買いたい物を伝えることができる。 ○上手な会話のやり取りを見つけることができる。
	O ・ P (お店)	<ul style="list-style-type: none"> ○短期記憶の保持が苦手で、話のつじつまが合わないことが多い。 ○よく話をするが、必要なことはうまく伝えられないことがある。 ○対面で話していても相手の話を聞いていないことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手の買いたい物を聞いてから、品物を渡したり、値段を言ったりすることができる。 ○上手な会話のやり取りを見つけることができる。
	Q ・ R (お店)	<ul style="list-style-type: none"> ○使用語彙は豊富であるが、意味をよく分からずに使っていることがある。 ○自分の関心のあることを絶えずしゃべっている。一方的で、あまり相手の話は聞いていない。 ○身近なことの話題では、友だちと短文での会話がはずむこともある。 ○言葉で攻撃することが多く、相手の気持ちを考える余裕をもてない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手の買いたい物を聞いてから、品物を渡したり、値段を言ったりすることができる。 ○上手な会話のやり取りを見つけることができる。
	S ・ T (お店)	<ul style="list-style-type: none"> ○お喋りは好きで、よく話をする。リードする人がいると、何回か話のやり取りができる。 ○知らない人に対しては緊張してうまく話せない。 ○改まって必要なことを話さなければならなくなると、口が重くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○相手に聞こえる声で、品物を渡したり、値段を言ったりすることができる。 ○上手な会話のやり取りを見つけることができる。

- 本時指導にあたっては、上記の児童の実態や特性・発達段階等を考慮し、
- ① どの児童にも学習の見通しがたちやすい計画表の提示をする。
(学習経過を見通し表に画像添付する。)
 - ・ 単元全体を通して、学習の流れや見通しが視覚的にとらえられるように常時掲示する。
また、掲示することで、困ったとき・立ち止まったときの振り返りや建て直しのきっかけにする。
 - ② 視覚的で、より具体的な支援教材・教具・場を駆使し、他者とのコミュニケーション力を高める。
 - ・ 模擬店では、できるだけ買い物にふさわしい環境の設営に心がける。
 - ・ 模擬店では本物の品物等を陳列し、買い物の学習の意欲をより一層高めると共に普段の生活により近い場の設定をする。また、陳列した品物の中には、すぐに手で取れるものやお店の人に伝えて取ってもらうもの等、品物の配置に工夫することで、両者の会話が引き出しやすいようにする。
 - ・ 話し言葉が出づらい子どもには支援カードを使い、話のやり取りの手がかりとさせるようにする。
 - ③ 模擬店で自分たちの買い物をVTRで視聴し、上手な話のやり取りを見つけやすいようにする。
 - ④ 話のやり取りを「ふき出し」に書き、より確かなものとしてとらえさせるようにする。
 - ・ 発表の段階では、上手な話のやり取りの様子を吹き出しに書かせ、より視覚的に分かりやすいようにする。
 - ⑤ 話のやり取りの上手なことをほめ、友だちのいい言動を身に付けることはとても意義があることを理解させる。
 - ・ 上手な話のやり取りを全体の中で賞賛し、真似をさせることでより高い話のやり取りを身に付けさせる。(コミュニケーション力のスキルの向上)
- といった手だてをとっていくことで、相手意識を持ち受け取る力を高め、伝え合う力を身につけさせたい。

8 準備

- 教師 学習計画表 模擬店 吹き出し 支援カード 陳列野菜 買い物カゴ
レジ機器 支払い用のお金(模擬) ビデオカメラ

9 本時の展開 (※1 自分の考えをつくる活動 ※2 話し合い活動 ※3 振り返り活動 ※**環**環境)

学習活動と内容	教師の支援と手立て
<p>1 本時のめあてを確かめる。 ○自分の役割と活動の見通しを持つ。</p>	<p>○学習計画表を見て、今日の学習の見通しをもたせる。 ・特に本時の場の設定について説明をし、学習の見通しをもたせる。 ※1 買う物の確認表、会話の例文等で自分がすることを確認させる。</p>
<p>めあて</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ お店の人 ・お客さんの言うことをよく聞いて、品物を渡したり値段を言ったりしよう。 ◇ お客さん ・お店の人の言うことを最後まで聞いて、買いたいものを言おう。 ・お店の人に聞こえる声で、買いたいものを言おう。 ◇ 買い物の仕方がよかったところを見つけよう。 ◇ 上手な言い方を覚えよう。 	
<p>2 グループごとに、模擬店で買い物学習をする。</p> <p>(1) グループごとに、模擬店で買い物学習をする。</p>	<p>○場の設定をし、具体的支援を整える。 ・模擬店の設置 ・実物の野菜や品物を店舗陳列 ・自分で取れるもの、人に伝えて取ってもらうもの等品物の配置を工夫する。 ※2 お店の人、買う人に分かれて、役割を演じさせる。</p>
<p>お店の人</p> <ul style="list-style-type: none"> ○お客さんの注文をよく聞いて、品物を提示する。 ○お客さんと品物の確認をし、代金を伝える。 ○ビニール袋に入れて、お客さんに丁寧に渡す。 ○相手の伝えたことをふまえて、対応することができる。 	<p>(お店の人)</p> <p>※環品物の説明書を準備し、それを見て説明する。</p> <p>※環接客マニュアル (いらっしやいませ。～まいど、ありがとうございます。)を準備しておく。</p>
<p>お客 Aグループ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分が買う品物を確かめる。 ○買う品物を探す。 ○もし、品物がなかったら、お店の人に尋ねる。 ○代金を聞いて、支払う。 ○相手を意識しながら、伝えようとすることができる。 	<p>(お客Aグループ)</p> <p>※環買う物の確認表を準備する。 子どもによっては、買う物のカードをポケットに入れ、困ったときに適時使えるようにする。</p> <p>※環尋ね方マニュアル (〇〇を1つ下さい。)を準備しておく。</p>

お客 Bグループ

- 自分が買う品物確かめる。
- 買う品物を探す。
- 似かよった品物から、買うものにふさわしいものを選ぶ。
- 代金を聞いて、支払う。
- 相手や場に応じた声の大きさを捉えることができる。

(2) 買い物学習での上手なやり取りを発表し合う。

- 相手の話を最後まで聞いて話している、相手に聞こえるように大きな声を出している、分からないことは相手に尋ねている等、友だちの上手なやり取りに気付く。

(3) 本時のまとめをする。

- めあてをもとに、ひとりひとり振り返る。

まとめ

- ◇ お店の人 ・お客さんの言うことをよく聞いて、品物を渡すことができた。
- ◇ お客さん ・お店の人の言うことを最後まで聞いて、買い物をすることができた。
・お店の人に聞こえる声で、買いたいものを言うことができた。
- ◇ 友だちの買い物の仕方のよかったところを見つけることができた。
- ◇ 買い物のときの上手な言い方が分かった。

3 次時の活動を確認する。

- 買い物に行くことが分かり、次時への意欲を持つことができる。

(お客Bグループ)

※**環**買う物の確認表を準備する。

子どもによっては、買う物のカードをポケットに入れ、困ったときに適時使えるようにする。

※**環**似かよった品物を選択するための選択カードを準備する。

※1 困ったことがあれば、相談コーナーに行かせ、買うものや話の仕方を確認させる。

※3 買い物の様子をVTRで振り返らせ、上手な買い物の仕方を見つけ出させることができる。

※3 話のやり取りを「ふき出し」に書き、より確かなものとしてとらえさせる。

- 姪浜地域のお店に買い物に行くことを伝える。

○実際に行くお店の場所や陳列してある様子等、画像を見せながら知らせ、次時の学習意欲の高揚を図る。